

令和6年度

自己評価

川村中学校・川村高等学校

川 村 小 学 校

川 村 幼 稚 園

令和6年度 自己評価

川村中学校・高等学校

1 教育目標

豊かな感性と品格
自覚と責任
優しさと思いやり

2 本年度の重点目標

- (1) 知・徳・体の調和の取れた教育の実践
- (2) 三位一体の教育を実践
- (3) 中高6年間を見通した教育の実践
- (4) 一人一人を生かす教育の実践
- (5) 進路を見据えた教育の実践

3 評価表

* 評価基準 (A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・ 建学の精神・教育方針 ・ 校務分掌組織 ・ 職員会議等の運営	B	成果：職員会議・成績会議等を通して共通理解を図り、組織が活きて働く仕事分担となっている。 課題：学校経営計画の紙面の作成をして、計画に基づき実施していく。
	②研究・研修	・ 研究組織、計画 ・ 授業改善への取り組み ・ 研究会への参加	B	成果：複数の教科で研究授業を実施し、授業の改善に努めた。 課題：研修会への更なる周知をし、授業の充実に努めていく。
	③保健・健康管理	・ 保健、安全計画 ・ 安全点検 ・ 緊急時の対応	A	成果：危機意識をもって保健指導が成され、学級閉鎖はなかった。 課題：感染症への予防対策に注意を払い、も引き続き様々な状況を想定して見直しを図っていく。
	④情報管理・施設設備管理	・ 個人情報の管理保護 ・ 施設設備の管理 ・ 施設の有効活用	B	成果：個人情報の管理については良好であった。安全点検を通して、管理および行き届いた施設管理ができた。 課題：施設管理については、メンテナンスを必要とする箇所がいくつかあり、引き続き改善を図っていく。
	⑤一貫教育	・ 学校公開の実施 ・ 学校情報の発信 ・ 小中高の連携	B	成果：ホームページ等のSNSを通して情報の発信をすることができた。 課題：小学校との連携を強化するため、クラブ活動における連携を実践していく。また小学6年生を対象の確認テストを通して小中の教科内の連携をより強化していく。
II 関連する教育活動	①教育目標・教育計画	・ 教育目標の周知 ・ 教育計画の作成 ・ 教育活動の評価	B	成果：教育目標に基づき、教員一人一人が意識をして取り組んでいる。 課題：日々の学校生活の中で、生徒に自覚を促すよう工夫を凝らして指導する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫 	B	<p>成果：各教科で話し合いながら、授業の充実を図った。不登校の生徒にはオンライン授業を実施し、学びの機会に繋げた。</p> <p>課題：新しい教材やＩＣＴを活用して、深い学びとなるようにしていく。また、評価方法については引き続き検討・改善をしていく。</p>
	③道徳・特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・授業の充実 ・生徒会活動 	B	<p>成果：スポーツデー・鶴友祭・宿泊学習等において生徒の主体的な活動、および能動的に行動する姿勢を支援した。</p> <p>課題：行事だけではなく、学校生活全般を活性化させるための主体的な活動を考えさせ、実践させていく。</p>
	④総合的な時間の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫改善 	B	<p>成果：学年毎のテーマ中1「地球環境」中2「国際理解・国際交流」中3「自覚」高1「共生」高2「平和」高3「自立」に基づき、豊かな発想を導きプレゼンテーション力をつける指導ができた。</p> <p>課題：個々が問題意識を持って深い学びができるよう指導する。</p>
	⑤生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対応 ・教育相談 	A	<p>成果：学年会を通して、教員間での共通理解をし、迅速な対応と指導ができた。いじめの問題に対しても、教員間で共通理解をし、早めの対応をし解決に繋がった。</p> <p>課題：生徒の問題に対する共通認識と寄り添った指導の充実を一層図るよう努める。</p>
Ⅲ その他	①三位一体の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 ・生徒理解 ・コミュニケーション 	A	<p>成果：保護者との連携を図りながら、生徒一人ひとりへの指導ができた。</p> <p>課題：指導に対する保護者への理解を図り、スピーディーな対応をしていく。</p>
	②キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・中学３年生の実践 ・高校１年生の実践 	B	<p>成果：中3と高1では、系統立てたキャリア教育を実践した。希望者に対し、提携している大学のキャンパスツアーを実施した。</p> <p>課題：一貫校としての進路指導の充実および高校生の進路指導の充実を図っていく。</p>
	③防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・避難訓練等の実践 ・伝達システム 	A	<p>成果：様々な想定に基づく訓練を、改善しながら実施することができた。</p> <p>課題：危機意識を持った訓練となるよう工夫をする。</p>
	④学校給食（会食）	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安心への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理 	A	<p>成果：アレルギー対応と感染症予防への対応が丁寧にかつ正確に行われた。</p> <p>課題：配膳時を含めた会食指導への更なる充実を図っていく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅲ その他	⑤鶴友会活動（部活動）	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動の運営 ・クラブ活動の指導 ・クラブ合宿 	B	<p>成果：日頃の活動や合宿等において、生徒の主体的なクラブ活動が行なわれていた。</p> <p>課題：外部指導者による技術指導によりクラブ活動の充実を図ると共に活動日数や引率の適正化のもと教員の負担を軽減していく。</p>
	⑥鶴友会活動（諸係り）	<ul style="list-style-type: none"> ・諸係りの運営 ・活動内容の充実 ・活動内容の改善 	B	<p>成果：仕事内容についての分担化を図って活動をしていた。</p> <p>課題：諸係の各部会や各リーダー会の実施により主体的な活動を指導する。</p>

4 総合評価

- * 生徒の自主的な活動を後押しし、生徒が協働して学ぶ能動的な取り組みができた。
- * 教員全員が共通認識をもって各学年・学級目標に基づく指導ができた。
- * 各行事において教員の共通理解のもと、改善を図りながら生徒の主体的な取り組みを支援することができた。
スポーツデーや鶴友祭では、生徒による実行委員会を組織の要とし、安全に運営することを見守りながら、生徒の発案による様々な企画が実施され、学校全体が活気付いた。
- * 三位一体の教育を実践することができた。
- * 月間目標の意義を考察し、日々の生活の中に活かしていけるよう指導した。
- * SNS等により円滑な人間関係が構築できなかったり、家庭での親子関係に悩んだりする生徒がおり、スクールカウンセリング等を利用しながら、対応策を講じていた。

5 来年度への改善策

- * 情報の収集と研修・研鑽を積み、さらに内容の充実に取り組む。
- * 一人一人の生徒が持つ能力の助長を図るための授業展開を行う。
- * 授業の充実を図るため、授業改善を意識して研修と研鑽を積極的に行う。
- * 高校において新指導要領での学習が一巡し、より効果的で能動的に学べる教授方法を確立させる。
学習状況の充実と一人ひとりの進路の把握に努め、生徒の希望する進路を実現していく。
- * 一貫校としての進路指導および高等学校の進路指導の充実を図る。
- * 検定合格に向けての意識を更に向上させ、高2までに目標級の取得ができるよう指導していく。
- * 外部試験において、進路の実現に向けての取り組みを段階的に考え取り組んでいく。
- * 小中高の連携を図ることで、一貫校としての特性を活かした教育の推進を図る。
- * 鶴友会クラブならびに鶴友会諸係において、生徒の主体的な活動を支援する。
- * 今まで取り組んできたICT化を、今後もIT機器を活用した授業の充実および教員一人一人のスキルアップを図っていくことにより、多様な学び方を通して、生徒一人一人の学力の助長を図っていく。
- * 教員一人ひとりが自覚と覚悟をもって、日々の生徒の学習指導・生活指導・進路指導にあたる。
必要な情報を取捨選択しながら、前進していくための会議を運営していく。
- * 各自の職務を遂行していくため、教員の意識向上をさらに図る。

令和6年度 自己評価

川村小学校

1 教育目標

- 生き生きとした子（やさしい心）
- 健やかな子（じょうぶな体）
- 自ら学び自ら考える子（かしこい頭）

2 本年度の重点

3本柱の構築

- （１）英語教育（実用英語技能検定奨励）
- （２）水泳指導（６年間の目標設定）
- （３）情報教育（４年生iPad導入）

3 評価表

*評価基準（A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である）

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神・教育方針 ・校務分掌組織 ・職員会議等の運営 	B	<p>成果：校務分掌など、各々の仕事分担を分かりやすいものにすることで、効率の良い時間の配分が可能となった。</p> <p>課題：今後も引き続き、学校経営理念、方針等継続実践の見直しを図りたい。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画 ・授業改善への取組 ・研究会への参加 	B	<p>成果：東初協研修会に参加したり、教科会を実施するなど、授業改善への取り組みを実施した。</p> <p>課題：学内での研修会を行うなど、より授業を改善できるような取り組みを実施したい。</p>
	③保健・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・安全点検 ・緊急時の対応 	B	<p>成果：各学年に応じた内容で安全教室を実施するなど、安全に対する意識づけをすることができた。</p> <p>課題：怪我や病気の児童に対し、まず通院を検討するなど学校としての対応をより強化、徹底し取り組んでいく。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理保護 ・施設設備の管理 ・施設の有効活用 	B	<p>成果：教員間でデータを共有することで、共通認識を持って業務に取り組んでいる。施設設備については、不具合が起きたらすぐに修理点検をしている。</p> <p>課題：情報処理能力向上を目指していきたい。施設管理については、不具合が起きる前に対応できるようにしていきたい。</p>
	⑤一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開の実施 ・学校情報の発信 ・小・中・高の連携 	B	<p>成果：学校行事などをコロナ前に戻すだけでなく、新たな取り組みも実施できた。鶴友祭では、公演で中高部活動と一緒に発表することができた。また、中夜祭・後夜祭にも参加した。</p> <p>課題：鶴友会活動や英検対策講座の早い復活が望ましい。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	⑥教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の周知 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 	B	<p>成果：コロナの収束に伴い、新たな視点での見直しをしながら、安全安心に、充実した学校生活を送ることができるよう様々な活動を開始した。</p> <p>課題：学校における生活の安定と向上を目指したい。</p>
	⑦教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫 	B	<p>成果：教科会で教科指導内容の共有を図っている。研修会の内容を振り返り、教科指導に役立てている。</p> <p>課題：情報処理技術を向上させ、よりよい教科指導につなげていきたい。</p>
	⑧道徳・特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・授業の充実 ・児童会活動の活性化 	B	<p>成果：誕生会を毎月実施し、各学年が企画して誕生者をお祝した。児童会活動も積極的に行い、児童委員の自主的な活動が見られた。</p> <p>課題：児童の自主性を大切にし、教員が型にはめることなく取り組む必要がある。</p>
	⑨夢科学習	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫改善 	A	<p>成果：宿泊学習をよりよくするため、毎回内容を吟味しながら進めている。希望者のサマーキャンプ、スキースクールも参加者が多く集まり、積極的に取り組んでいる。</p> <p>課題：今後もそれぞれの見直しを重ね、より充実した宿泊学習を構築していく。</p>
	⑩児童指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対応 ・教育相談 	A	<p>成果：毎週実施される学年会での情報交換で、問題への早い対応が可能となっている。</p> <p>課題：様々な問題を抱えている児童が多くなっているようである。家庭との協力、およびスクールカウンセラーとの有効な連携がこれまで以上に必要な現状となっている。</p>
Ⅲ その他	⑪三位一体教育	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 ・児童理解 ・コミュニケーション 	A	<p>成果：家庭との連絡を密にすることで、問題を小さなうちに解決できた。</p> <p>課題：子ども同士のコミュニケーション不足と、高学年のトラブルへの適切な対応が臨まれる。</p>
	⑫英語教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・各学年の実践 ・英検対策講座 	B	<p>成果：教科書活用と家庭での音読練習が身に付いているのではないかなと思う。英検受験者も増加している。</p> <p>課題：具体的な効果と今後を見据えた指導方法の提示。低学年のA・S英語受講者が増加しているため、授業との連携を図ることで、効果を上げたい。</p>
	⑬防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・避難訓練等の実践 ・伝達システム 	B	<p>成果：幼小中高の設備点検を行うとともに避難訓練を実施し、大規模災害に対する備えの準備を進めることができた。</p> <p>課題：心配される自然災害に対し、あらゆる対策を講じ、児童の安全・安心を最大の目的とした取り組みを常に心がける。自然災害への危機感を常に持ち、教師も児童も自身の命を守る行動を身につける。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅲ その他	⑭会食指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理 	A	<p>成果：アレルギー対応を徹底し、家庭の協力を得て、大きな事故もなく過ごしている。</p> <p>課題：今後もマナー指導など、教員により偏ることのないよう、共通の意識を持って取り組んでいく。</p>
	⑮鶴友会活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動の運営 ・放課後活動の運営 ・A Sの運営 	A	<p>成果：放課後活動利用者が増加し、有意義な活動となるよう、進めていくことができた。A. S受講者も増加している。</p> <p>課題：教室や対応者など、参加者増加への環境設定が急務である。</p>

4 総合評価

※ポストコロナ期において、学校行事などはコロナ前に戻すことができた。ただコロナ前に戻すだけでなく、新たな視点から、心と体と頭の健やかな成長を促す小学校にて、子ども達に寄り添いながら、身に付けてもらいたい力や経験してほしい体験活動を掘り下げ、具体的な教育活動に生かしていきたいと考えている。教科指導においては、各教科でのICT化を展開することで学びの場を、より充実したものにしていく。時代に合わせた対策や見直し、創意工夫により、常にニーズに寄り添う姿勢を大切にしようと考えている。

※子ども達同士で相手の気持ちを推し量ることができない児童もあり、トラブルも多かった。個々の精神的なケアが必要とされる児童も多くあり、スクールカウンセラーの対応を望む声が多々見受けられた。

※宿泊学習や社会科見学など、学外で行う行事について、教育課程に基づき、よりよい内容となるよう企画立案をした。

5 来年度の改善策

※「学習習慣」「基本的生活習慣」「家庭での学習習慣」の3つの確立に向け、学校全体で指導を重ね、落ち着いた安全で安心なけがのない学校生活を目指す。

※人間関係をスムーズに構築するため、日常生活や道徳の授業などを通して、相手の気持ちを推し量ること大切さを教えていく。

※放課後活動の授業が年々増しており、A. Sや学習サポートを充実させていく。

※放課後活動の一環として、鶴友会クラブを復活させ、中高部活動との連携を図る。

※算数セミナーについては、放課後活動の多様化、また児童それぞれの学力の差がみられるため、スクールTOMASに依頼し、平日毎日学習できる環境を整える。

※英検合格を目指し、英検対策講座を再び開講することと同時に、教科書（スマイル）の活用を今一度検討し、より英語力の底上げを図る。また、A・S「英語」の低学年受講生が増加しているため、A・Sとも連携してそれぞれの力を向上させたい。

※4年生から導入となる1人1台のiPadの活用をもっともっと活性化させるべく、活用ルールの徹底と教師の研修にも時間を費やすよう意識を高める。

※外部研修会や個人研修を利用した講習への参加に積極的になるよう呼びかけ、それぞれのスキルを高めようとする意欲を喚起したい。同時に、年間1人1回の研修を受けることを奨励する。

※茶道の先生に依頼し、月に1～2回、お茶席の作法などを稽古し、日本の伝統文化に触れ、女性として豊かな知性と感性を磨く機会を設ける。

令和6年度 自己評価

川村幼稚園

1 教育目標

豊かな「こころ」
のびやかな「からだ」
工夫する「あたま」

2 本年度の重点

- (1) 集団の中で伸びやかに
- (2) 始めの一步を緩やかに
- (3) 行事を通して健やかに

3 評価表

* 評価基準 (A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 幼稚園運営に関するもの	①組織運営	・ 建学の精神・教育方針 ・ 職務分掌組織 ・ 職員会議等の運営	B	成果：学園の理念を伝えながら、それぞれの家庭に寄り添い対応してきた。 課題：今後も全園児が安全安心に通園できる環境が備わるよう努めたい。
	②研究・研修	・ 研究組織、計画 ・ 保育改善への取組 ・ 研修会への参加	A	成果：個人での研修会の参加を通して、保育への理解を深めた。 課題：全員の共通理解となるよう、発表や話し合いを行う。
	③保健・安全管理	・ 保健計画、安全計画 ・ 安全点検 ・ 緊急時の対応	A	成果：各校とともに、AED実技講習会や刺又などの、不審者対応実技講習会を行った。 課題：体力増進のための食と運動による体づくりと、安全安心な園生活を過ごすよう工夫する。
	④情報管理・施設設備管理	・ 個人情報の管理保護 ・ 施設設備の管理 ・ 施設の有効活用	A	成果：日々点検、及び対応をし、安全安心に努めた。 課題：今後も常に園児の活動の安全安心のため、細心の注意を払い、日々の保育を行う。
	⑤一貫教育	・ 保育公開の実施 ・ 幼稚園情報の発信 ・ 幼・小・中・高の連携	B	成果：園児の様子を見ていただける保育参観や、Instagramを利用し普段の様子を写真で見えていただけるよう発信を行った。 課題：小中高との連携は年齢的に難しいが、交流の場を持てる機会をつくる努力をする。
II 保育活動に関するもの	⑥保育目標・保育計画	・ 保育目標の周知 ・ 保育計画の作成 ・ 保育活動の評価	A	成果：毎月の園だよりなどの配布物で保護者へ伝えていきながら、園児の状態で計画を立てることができた。 課題：基本的生活習慣の日々の徹底に努めていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅱ 保育活動に 関するもの	⑦保育指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫 	B	<p>成果：園児ひとりひとりに気を配り、登園に不安なく、元気に楽しく過ごせるよう、声掛けを行った。</p> <p>課題：翌日の登園に期待を持って、ポジティブな気持ちで帰れるよう、配慮する。</p>
Ⅲ その他	⑧三位一体の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 ・幼児理解 ・コミュニケーション 	B	<p>成果：送迎時にクラスや子どもの様子を伝える時間を設け学期ごとの面談を行い、具体的に園での様子を知っていただいた。</p> <p>課題：一人ひとりの園児への理解を深め、保護者から信頼される、幼稚園を目指す。</p>
	⑨防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・避難訓練等の実施 ・伝達システム 	A	<p>成果：毎月の避難訓練を実施した。園庭での避難など、いろいろなシチュエーションの訓練を行った。また2月には大地震を想定した訓練を行った。</p> <p>課題：大地震の際の訓練にも力を入れ、教職員の連携も行っていく。</p>
	⑩給食指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理 	A	<p>成果：家庭と協力しながら、安全安心な食生活を送ることができた。</p> <p>課題：食事の環境を整えていく。</p>
	⑪保育後の活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の運営 ・ASの運営 	A	<p>成果：預かり保育は16時まで行い、多くの園児が利用している。保護者のニーズに応え、ASの参観や発表を行った。</p> <p>課題：預かり保育の帰り時間について、いろいろなご意見があるため、検討していく。</p>

4 総合評価

- * たくさんの行事を通して、学ぶことや考えることがたくさんあるメリハリのある1年感を過ごすことができた。
キンダーファミリーパーティー、鶴友祭、発表会など、力を合わせて取り組む大きな行事もあり、周りを見て困っている友だちに声をかけたり、自分の考えや、意見を伝えたりと、園児、一人一人が輝く場面が多くあった。中でも、鶴友祭では、大講堂の舞台に立ち、歌や年長組は英語のアナウンスにも挑戦して、堂々と歌う姿は大きな成長を感じた。
- * 園庭の花や木々で季節の移り変わりを感じながら、日々の活動をすることができた。又、花壇で花や野菜を育てる経験をし、自分で世話をした。植物の生長を感じ、喜びを得ることができた。
- * 英語のカリキュラムの導入により、英語を身近に感じる機会が増え、簡単なあいさつや自己紹介などができるようになり、保護者にも好評であった。
- * 入園前、未就園児企画「プチキンダー」に定期的かつ継続的に通った経験が活かされ、母子分離が早く、園内に慣れている子が多かった。

5 来年度の改善策

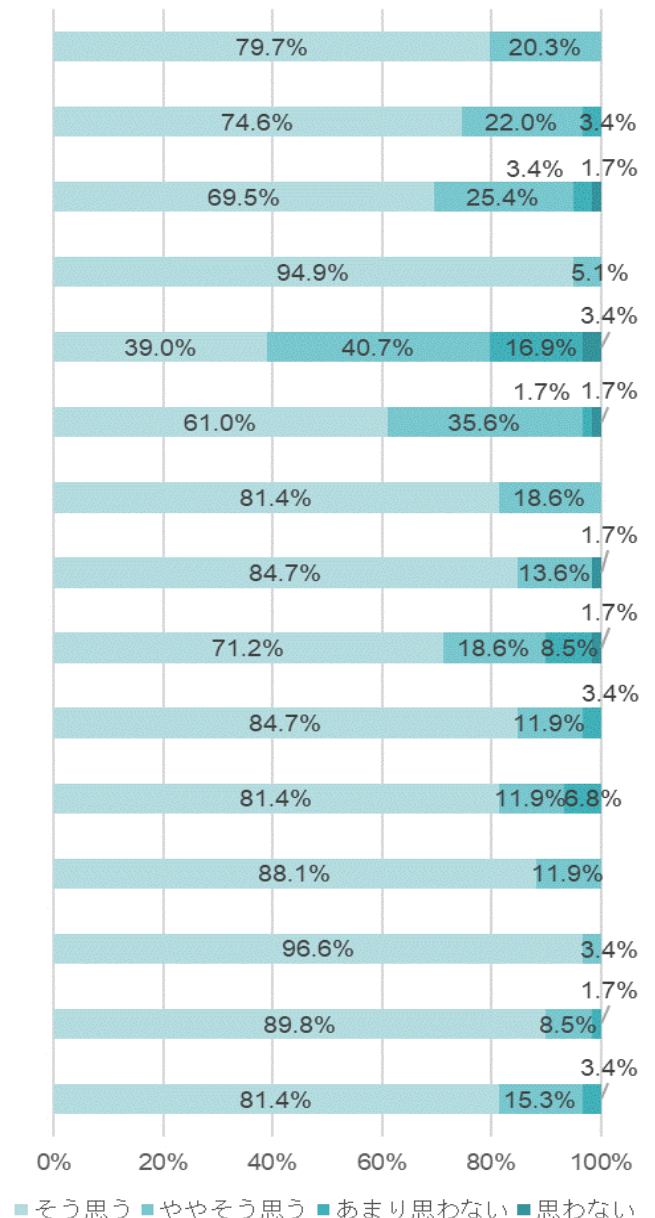
- * 暑い時期にだけ行った、お弁当の日としていた水曜日に行った、給食提供が好評だったこともあり、7年度は週5回の給食提供を実施する。
- * 保護者アンケートの意向に基づき、試食会を実施する予定。
- * 既存の行事も保護者の見学や参観ができるよう、検討していきたい。

【保護者アンケート結果】

実施時期：令和6年12月10日（火）～15日（日） 回答数：59名（回答率81%）

評価： 4 そう思う 3 ややそう思う 2 あまり思わない 1 思わない

1. お子様は、毎日幼稚園に行くのを楽しみにしている。
2. 幼稚園は、学園の教育理念を園の活動に活かしている。
3. 幼稚園は、一人ひとりを大切にした保育を行い、一人ひとりに応じたきめ細かな指導をしている。
4. 幼稚園の行事は内容が工夫されており、子どもの生活を豊かにするものになっている。
5. 幼稚園は、小学校等と連携した教育活動をしている。
6. 幼稚園は、日々の教育を見直し、改善に努めている。
7. 教職員は互いに連携を取り、協力して教育活動にあたっている。
8. 園の情報をより広く提供するために、園だより・ホームページ・一斉配信メールなどを有効に活用する取り組みがなされている。
9. 日々の報告や誕生会、懇談会など、保護者が園でのお子様の様子を理解したり、子育ての悩みを相談したりする機会がある。
10. お子様のけがや体調が悪くなった時の教職員の対応は信頼できる。
11. 園児や保護者の個人情報の取扱いについて、管理がしっかり整備され、その方針が分かりやすく示されている。
12. 園児が意欲的に活動できる施設・設備等、環境が整備されている。
13. 幼稚園は、避難訓練や緊急時の対応等、安全教育や危機管理に努めている。
14. 幼稚園は、保護者と協力して健康な心と体を育てるため、安全・安心な給食の提供による食育に取り組んでいる。
15. アフタースクール・セミナーは、保護者のニーズを取り入れ、子どもの豊かな成長につながる多種多様な講座が用意されている。



【学校関係者評価評価委員会の評価】

* 令和7年3月26日（水） 評議員会

園児の減少という課題はあるものの、教育内容や園の環境は充実しており、おおむね安定した教育活動ができていると言える。質問4は令和5年度は「そう思う」が84.6%であったが、令和6年度は94.9%と伸び、多様な活動に定評があり、子どもたちの成長につながっている様子がうかがえる。そのほか、食中毒予防の観点から年度の途中でありながらも給食の回数変更をしたことは、子どもの健康を守るうえで評価できる事項である。しかし、依然として質問5の評価が低いのは課題である。子どもを取り巻く環境が大きく変わりつつある中で、一貫教育の良さを発揮し小学校との連携に努め、子どもたちが自己肯定感をもって、生きていく術の基盤を培っていただきたい。さらには、上級校への進学率向上につながるような工夫を実績に期待するところである。